

2020 年も折り返し点に

早いもので、2020 年も半分が過ぎ、折り返し点になった。いつも感じることだが、今年はずいぶん違う。コロナ禍により、とりわけ 3 月以降は変則的な生活を強いられた。長くもあり、時の流れを実感できない日々であった。正月元旦に次のように書いた。

今年は、写真のような年になるのではと考えている。写真は昨年 9 月 10 日の早朝に自宅ベランダから撮った。「定点観測」している生駒山のほうを眺めると、今まで見たことのないような朝焼けの空が一面に広がっていた。なんとも言えない朝焼けだ。



2020 年という年は、時代の変化を予感させる。猛暑の夏は東京オリンピック・パラリンピックに、日本中が沸いていることだろう。その前後に、とりわけ政治の世界で大きな動きがありそうだ。ひとつは国政レベルだ。長期にわたる安倍政権が、このまま続くとは考えにくい。「桜疑惑」はもちろん、数々の失態、悪政を重ねながら逃げ回っている安倍首相。こんな政治の転換を予感させる。いや転換しないと、この国は立ち上がれなくなってしまう。

もうひとつの動きとして、わがまち大阪の政治である。何回もレポートしてきたように、大阪市を廃止して 4 特別区に分割再編する「都」構想をめぐって、11 月上旬には住民投票が行われる。5 年前の住民投票では、名古屋からメッセージやエールを送った。こんどは大阪市民の一人として、大阪市廃止により甚大な影響を受ける当事者として、住民投票に立ち向かわなくてはならない。大阪維新の会の支持基盤と「底力」、それに追従することになった公明党の変質など、大阪市廃止をめぐる情勢は厳しいものがある。朝焼けの空の写真は、そんな大阪を表現している。

年のはじめから、政治談議になってしまった。こんな 2020 年をどう生きていくか。また歳を重ねるわけで、まずは健康を心がけたい。いろいろ慢性的な病を抱えているが、医者にも定期的に通いながら、なんとか悪化するのをくいとめたい。それには毎日 8000 歩を心がけるなど、体を適度に「こき」使い、生活のリズムを保っていくことだ。早く寝て早く起き、毎朝レポートを書く。そして図書館通いを続ける。これが退職後の生活スタイルだ。こんな事情もあり、できるだけ夜の会議などは避けたいのだが、ここでも住民投票のことが気がかりだ。研究面でも、「半歩前進」させたいのだが。

正月元旦から半年が過ぎ、コロナ禍で大きく変わったこと、大阪市廃止・解体のように、変わりばえない動きもある。でも気力だけは充実させてきた。4 ヶ月後にも想定される大阪市廃止の是非を問う住民投票に向け、全力で阻止に向けた活動を進めたい。

(2020 年 7 月 1 日)